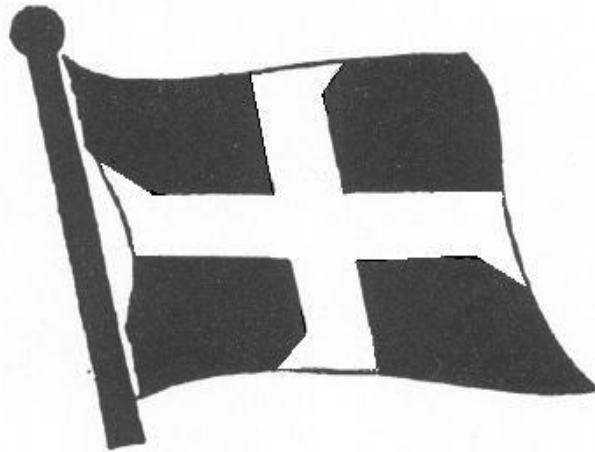


蒼穹ニユース

No. 2

関西インカレ総括号

平成 23 年 5 月 22 日発行



~~~~ 目 次 ~~~~

1. 主 将 挨 拶
2. 監 督 挨 拶
3. 関西インカレ対校得点
4. 関西インカレ詳細
5. 新 入 部 員 紹 介

## 主将挨拶

去る5月12、13、14、15日に行われました関西インカレにおいて、京都大学は大阪大学、大阪教育大学、神戸大学に次ぎ4位に終わり、目標として掲げていた1部昇格を達成することが出来ませんでした。ハンマー投げの田中聡 (D3)、3000mSCの山田唯 (M1)、走高跳の菅原 (2)、棒高跳の田中皓 (4) がランキングを覆しての表彰台、また小山俊 (M1)の3種目で22点の活躍などもありましたが、得意としている種目での取りこぼしもあり、チーム全体の、そして私自身の力不足であったのではないかと認識しております。

7月に行われる七大戦では、関西インカレで戦った大阪大学が大きな壁として立ちはだかることが予想されます。その壁を乗り越えて、今年こそ七大戦の優勝を勝ち取れるようにチーム一丸となって努力していきたいと思っております。

最後になりましたが、応援してくださった蒼穹会の皆様に部を代表してお礼申し上げます。今後とも、ご支援、ご声援のほどよろしくお願い致します。

京都大学陸上競技部主将

秋元 一志

## 監督挨拶

4月28日のハーフマラソンから始まった今回の関西インカレもついに終わりました。一部昇格を目標に掲げ、選手、審判、応援、マネージャー共々5日間力を尽くして戦いましたが、結果男子2部総合4位と、目標を達成することは叶いませんでした。

ハンマー投げでの予想を大きく上回る得点から始まり、小山俊(M1)の多種目にわたる活躍、400mRの優勝や、その他自分の今持てる力を出し切ったの入賞、そして得点に絡まないところでも多くの自己ベスト更新などがありました。しかし上位3校も得点するべきところでしっかり得点し、特に大阪教育大、神戸大には持てる力を十二分に発揮され、その強さを見せつけられました。当然のことではありますが、他大学も必死で戦ってきます。来年は神戸大学に加え、京都教育大、びわスポ大と戦うことになります。これらの大学に打ち勝ち一部昇格を果たすため、これからの一年間、今回の悔しさを忘れることなく、前向きに、精一杯努力してまいります。

そして、2か月後には七大戦があります。2005年以降優勝から遠ざかっておりますが、今年こそは総合優勝を果たせるよう、部員一同精進してまいります。

最後になりましたが、4日連続という厳しい日程でありながら、多くの先輩方に応援に駆け付けていただきまして、誠にありがとうございました。今後ともどうかご支援・ご声援のほど、よろしく願いいたします。

京都大学陸上競技部監督

前田 峰尚

## 第87回関西学生陸上競技対校選手権大会

### **男子2部総合成績** (上位8校のみ)

|           |            |              |
|-----------|------------|--------------|
| 1位        | 大阪大        | 136点         |
| 2位        | 大阪教育大      | 107点         |
| 3位        | 神戸大        | 101点         |
| <b>4位</b> | <b>京都大</b> | <b>87.5点</b> |
| 5位        | 大阪府立大      | 46.5点        |
| 6位        | 佛教大        | 43点          |
| 7位        | 奈良産業大      | 39点          |
| 8位        | 大阪産業大      | 39点          |

### **男子2部トラックの部**

|           |            |            |
|-----------|------------|------------|
| 1位        | 神戸大        | 86点        |
| 2位        | 大阪大        | 64点        |
| 3位        | 大阪教育大      | 55点        |
| <b>4位</b> | <b>京都大</b> | <b>50点</b> |

### **男子2部フィールドの部**

|           |            |              |
|-----------|------------|--------------|
| 1位        | 大阪大        | 57点          |
| 2位        | 大阪教育大      | 41点          |
| <b>3位</b> | <b>京都大</b> | <b>37.5点</b> |

### **男子2部混成の部**

|    |       |     |
|----|-------|-----|
| 1位 | 大阪教育大 | 11点 |
| 2位 | 大阪大   | 11点 |
| 3位 | 大阪産業大 | 9点  |

### **男子1部総合成績**

|     |       |        |
|-----|-------|--------|
| 1位  | 関西学院大 | 166.5点 |
| 2位  | 立命館大  | 144点   |
| 3位  | 大阪体育大 | 97点    |
| 4位  | 京都産業大 | 95点    |
| 5位  | 関西大   | 84点    |
| 6位  | 近畿大   | 51点    |
| 7位  | 同志社大  | 50.5点  |
| 8位  | 天理大   | 48点    |
| 9位  | 龍谷大   | 37点    |
| 10位 | 摂南大   | 26点    |
| 11位 | 京都教育大 | 24点    |
| 12位 | びわスポ大 | 24点    |

### **女子総合成績**

|    |      |       |
|----|------|-------|
| 1位 | 東大阪大 | 133点  |
| 2位 | 立命館大 | 126点  |
| 3位 | 関西大  | 85.5点 |

## 関西インカレ詳細

第2日目 5月12日(木)

第1日目 (4月28日 長居公園周回)

長居第2陸上競技場

### ハーフマラソン 決勝

|     |            |       |         |
|-----|------------|-------|---------|
| 1位  | J クアライ (4) | 奈良産業大 | 1:07:19 |
| 2位  | 佐古 諒介 (4)  | 佛教大   | 1:07:41 |
| 3位  | 荒川 凱斗 (3)  | 大阪経済大 | 1:08:21 |
| 4位  | 中島 弘貴 (4)  | 滋賀大   | 1:08:38 |
| 5位  | 酒井 健 (3)   | 大阪大   | 1:09:12 |
| 6位  | 寺坂 俊哉 (1)  | 佛教大   | 1:09:18 |
| 7位  | 藤原 風希 (3)  | 甲南大   | 1:09:26 |
| 8位  | 近田 昌志 (3)  | 大阪市立大 | 1:09:50 |
| 12位 | 小山 裕之 (M2) | 京都大   | 1:10:48 |
| 23位 | 菊川 信人 (D3) | 京都大   | 1:13:36 |
| 27位 | 平井 幹 (2)   | 京都大   | 1:14:32 |

例年に比べ、少し肌寒い気温の中スタートした今回のレースであった。序盤、小山裕と平井は大集団のやや後方でレースを進める。菊川は少し出遅れ、苦しいレース。じわじわと気温が上がりはじめたところ、10km手前で平井が徐々に遅れ始め、小山裕を含む12位集団から離脱、その後もずるずると失速した。小山裕は粘りの走りを見せ、17km付近では入賞へ10数秒のところまで迫ったが、最後には力尽き、12位でのゴールとなった。菊川と平井も最後まで諦めず、懸命に走り続けたが、菊川は23位、平井は27位に終わり、得点は獲得できなかった。1部昇格に向けて厳しいスタートとなった。(板垣)

### ハーフマラソン終了時点での男子2部対校得点

|    |       |     |
|----|-------|-----|
| 1位 | 佛教大   | 10点 |
| 2位 | 奈良産業大 | 8点  |
| 3位 | 大阪経済大 | 6点  |
| 4位 | 滋賀大   | 5点  |
| 5位 | 大阪大   | 4点  |
| 6位 | 甲南大   | 2点  |
| 7位 | 大阪市立大 | 1点  |

### 女子400m予選 (6組2着+4)

釜谷美翔子(2) 1組5着 60.96 CB

大雨が少し弱まってきた時間帯に女子400mが始まった。釜谷は200mまで快走するも、それ以降少しづつ周りから離され始めてしまう。しかし粘りの走りで、60秒96という大学新を叩き出し、準決勝には行けなかったものの京大を大いに活気づけた。(菅原)

### 400m予選 (4組3着+4)

大川 亮(4) 1組3着通過 51.38

朝から降っていた雨が直前に止み、曇りながらも気温は順調に上がってきた決して悪くないコンディションの中レースが始まった。大川は7レーンとやや外側からスタートしたが、短距離選手ほどの加速力はないためスロースタートとなった。すると5レーンの選手に早くも100m地点で並ばれ、さらに前に出られる展開となった。第3、4コーナーでは内側の実力者にさされ、4番手でバックストレートに入った。しかしそこは流石のラスト。5レーンの選手を抜き返し、3着で準決勝進出を決めた。(花岡)

### 女子1500m予選 (3組3着+3)

岩橋 優(3) 3組10着 4.59.88

田中 友理(2) 4組9着 4.56.60 PB

朝から降り続いていた雨も止みコンディションの良いなか岩橋と田中が出場した。3組目に出場した岩橋は序盤から動きにキレがなくずるずると後退していく走りで精彩を欠きベストとは程遠い結果に終わった。気持ちを切り換えて残りの種目で女子を引っ張ってもらいたい。4組目に出場した田中は自分のペースを貫き安定した走りで自己記録を更新した。決勝に進むにはまだ力が足りなかったが、ブレのない綺麗な走りは大きな可能性を感じさせた。これからチームの中心となるであろう選手なので今後の活躍に期待したい。(不破)

### 1500m予選 (3組3着+3)

小山 俊之(M1) 3組1着通過 4.01.11

水元 惟暁(3) 1組6着 4.03.77  
 久好 哲郎(2) 2組8着 4.08.14

男子1500m予選には小山俊之、水元、久好の3人が出場した。1組目の水元はいい位置でレースを進める。ラスト300mあたりで先頭から離され始めるが自己ベストに近いタイムでゴールした。しかし惜しくも決勝進出にはあと1人及ばなかった。2組目の久好は積極的に試合を進め先頭を引っ張るも中盤でポケットされ思うようなレース展開が出来ず悔しい結果となった。3組目の小山俊之は落ち着いたレース運びを見せ、ラスト100mでスパートをかけると前を走る3人をかわし、貫禄の走りで1位通過を決めた。(横山裕)

### 女子100m予選(6組2着+4)

増本 梨奈(2) 4組7着 14.23(+0.0)

雨も止んだ午後、練習熱心で期待も大きい増本が出場。瞬発力が最大の持ち味で、本大会では砲丸投にも出場する。しかしその得意のスタートダッシュも、実力のあるまわりの選手達には到底及ばず、スタート直後に置いていかれてしまった。初めての関カレの緊張からか、力んで腰が落ちた走りになってしまい、自分のしたい走りすらできなかったのは残念だ。しかし、練習では腰が落ちるといふ悪い癖も随分直ってきており13秒台中盤は出せる力はあるので、彼女の今後に期待したい。(加奈山)

### 100m予選(7組3着+3)

牧川 真央(2) 1組1着通過 10.79(+0.7)CB  
 眞武 俊輔(3) 5組1着通過 10.90(+1.4)  
 水上 裕介(2) 7組1着通過 10.98(+1.4)CB

雨も上がり、いい追い風の吹く中100m予選は行われた。眞武は春先に調子を落としていたが、それを振り払うかのような力強い走りで走り抜けた。牧川は最後にスピードを緩める余裕を見せながらも自己ベストに迫る走り。対抗戦初出場の水上も落ち着いた走りで念願の10秒台を出した。3人とも10秒台・組1着での予選通過となり、準決勝も好記録が期待される。(巽)

### 400m準決勝(2組3着+2)

大川 亮(4) 2組4着 50.54

予選の疲れも見せず、スタートから攻める大川。そのまま中盤まで速いスピードを維持し、折り返

しからはやや減速するも800mを本職とするその力を見せつけ最後まで粘って組4位でゴールした。タイムは50'54"でなんとか拾われ見事決勝へと駒を進めた。決勝では1点でも多く点を稼ぐ走りを期待する。(桐山)

### 1500m決勝

優勝 山西 大貴(神戸大M1) 3.53.45  
 2位 小山 俊之(京都大M1) 3.53.74  
 3位 T キハラ(奈良産業大2) 3.55.55

男子1500m決勝には小山俊之が出場した。序盤から1200m付近までは落ち着いたペースになり、集団のままレースは進んだ。レースが動いたのは1200m過ぎ。小山俊が一気に仕掛け先頭に出て先頭集団が奈良産のTキハラ、神戸大の山西、小山俊の3人に絞られた。ラスト200で一度抜かれかけたため再びスパートをかけ先頭に出るが、最後に神戸大の山西に追い抜かれて首位は明け渡した。しかし2位を死守し、チームに勢い付ける走りとなった。(荒木)

### 4×100mR予選(4組1着+4)

牧川真央 - 塚原和明 - 水上裕介 - 眞武俊輔  
 1組1着通過 41.24

高得点が期待されるこの種目、1走を走ったのは牧川。持ち前のスタートと加速力でぐんぐんと敵を突き放す快走を見せた。2走の塚原も、風が強い中しっかりと走りを見せた。他に差をつけられることもなく、本人の最大限の力を出すことができていた。3走の水上は初めての4継参加ではあったが、それに臆することなく素晴らしい走りを見せつけた。安定したコーナリングで4走の眞武にバトンを繋いだ。4走の眞武はやはり勝負強い。ラストの直線、他の追い上げにも全く屈しないスピードで激走。危なげなく一着でフィニッシュした。昨年の優勝タイムやリザルトを考えたとしても、確実に決勝で表彰台の一番上を狙えるタイムであることは言うまでもないだろう。(森裕)

### ハンマー投決勝

1位 内藤 克己(和歌山大2) 50.81  
 2位 武藤 将大(大阪大3) 44.82  
 3位 田中 聡一(京都大D3) 43.34 PB  
 6位 高橋源一郎(京都大4) 40.20 PB  
 田中[41.97-43.34-×-41.74-41.73-43.11]  
 高橋[39.14-38.74-39.45-37.20-39.15-40.20]

男子ハンマー投げには田中と高橋の二人が出場した。雨が降った後で足が滑る選手も多い中、田中はベテランの安定感を見せ1投目から40mを越える投擲を続け、2投目には43m34を投げる。高橋も40m近く投げ、二人とも決勝に進む。その後5投まで記録は伸びなかったが、高橋は最後の6投目で遂に念願の40m台となる40m20を投げ、一気に2人をおかわし6位に入る。田中も2投目の記録で3位と初の表彰台入りを果たし、2人ともランキング以上の成績を残した。二人の励まし合いながら記録を伸ばす姿は京大にとって点数以上の追い風となった。(渡邊)



ランキングを覆し大きく得点した田中(左)と高橋(右)

### 十種競技(前半)

森 洋貴(M1) 1911点  
 [100m 13.14 (+2.6) (444)-LJ4.84 (+0.0) (352)  
 SP7.54 (339)-HJ1.50 (389)-400m 60.79 (387)]

小雨のなか、100mを皮切りに始まった男子十種競技には、今年度から修士課程編入の森洋貴が出場した。100m、走幅跳では前回の試合を上回るまですの記録を残した。砲丸投では思ったような投擲が出来ず苦しむも、次の走高跳では自己ベストタイの記録で巻き返した。最後の400mでは周りに離されながらも持ち前の粘り強さで最後まで走り抜けた。得点圏に入るには苦しい戦いではあるが、2日目も今日のような力のこもった競技、そして好記録を期待したい。(浅井)

### 対校得点(2日目終了時点)

|        |     |
|--------|-----|
| 1位 京都大 | 16点 |
| 2位 神戸大 | 13点 |
| 3位 大阪大 | 12点 |

## 第3日目 5月13日(金)

### 長居第2陸上競技場

#### 110mH 予選 (2組3着+2)

|         |      |             |
|---------|------|-------------|
| 異 浩之(2) | 1組5着 | 16.57(-4.1) |
|---------|------|-------------|

強い向かい風の中、110mHに異が出場した。前半から風に押されて苦しい展開となるが、そこから粘りのレースを見せて、もつれ込みながらのゴール。記録は決勝までもう一步の全体9番目。隣の選手に競り勝てば決勝ただだけに惜しかったが、ランキングを大きく覆した気迫のレースであった。七大戦では決勝できっちり勝負したい。(清水)

#### 100m 準決勝 (3組2着+2)

|          |        |             |
|----------|--------|-------------|
| 牧川 真央(2) | 1組1着通過 | 11.19(-1.2) |
| 眞武 俊輔(3) | 3組5着   | 11.19(-0.6) |
| 水上 裕介(2) | 2組5着   | 11.34(-1.9) |

予選を順調に突破して準決勝にのぞんだ牧川、眞武、水上の3人。牧川は持ち味のスタートで飛び出し、60m付近で勝負を決め軽快にフィニッシュ。11秒19(-1.2)の組1着で決勝進出。眞武はスタートで出遅れ、後半持ち前のスピードで追い上げるが、及ばず11秒19(-0.6)の組5着で落選。水上はスタートダッシュに出遅れ、力が入ってしまいいつもの追い上げを発揮できず惜しくも11秒34(-1.9)で組5着で落選。(塚原)

#### 5000m 決勝

|     |                 |          |
|-----|-----------------|----------|
| 優勝  | 小山 俊之(京都大 M1)   | 14.47.13 |
| 2位  | 山西 大貴(神戸大 M1)   | 14.48.02 |
| 3位  | J クアライ(奈良産業大 4) | 14.50.19 |
| 18位 | 小山 裕之(京都大 M2)   | 15.35.52 |
| 19位 | 毛芝 雄己(京都大 3)    | 15.36.56 |

昨日とは一変した蒼天の下、男子5000mタイムレース決勝が行われた。一組目に登場した毛芝は強風の中のレースを終始先頭集団を進め、二着でゴールするも得点には絡めなかった。二組目の小山俊は先頭集団でレースを進める。最後は前日の1500mで競り負けた山西との熾烈なスパート勝負となるも、しっかりと借りを返し優勝を果たした。小山裕はハーフの疲れか3000m以降先頭集団に後れをとる。懸命に前を追うも届かず無念の結果となった。(中東)



貫緑の走りで連覇を達成した小山俊之

### 400m 決勝

|    |       |           |       |
|----|-------|-----------|-------|
| 1位 | 亀坂 晃司 | (大阪市立大 3) | 48.46 |
| 2位 | 松本 朋之 | (神戸学院大 3) | 48.97 |
| 3位 | 山本 恭平 | (大阪教育大 4) | 48.97 |
| 8位 | 大川 亮  | (京都大 4)   | 51.93 |

風が吹き荒れる中始まった男子400m。出場したのは大川だ。最近腰を悪くして少し心配であったが、準決勝では前半から突っ込む走りで決勝進出を決めてくれた。決勝のレースでは前半からあまりスピードに乗り切れておらず、少し周りから出遅れてしまう。3本目の400mということで疲れもたまっていたのか、後半からも前を追い上げられず、8着でフィニッシュした。対校得点での接戦が予想されるなか大川は貴重な一点をもぎとってくれた。(山崎)

### 100m 決勝 (-0.3)

|    |       |          |       |
|----|-------|----------|-------|
| 1位 | 森本 克貴 | (神戸大 2)  | 10.88 |
| 2位 | 牧川 真央 | (京都大 2)  | 10.98 |
| 3位 | 大家賢志郎 | (大阪大 M1) | 11.00 |

100m決勝には牧川が出場した。普段はスタートが得意な牧川だが、大舞台に緊張してしまったのかスタートで出遅れてしまう。しかし中盤で何とか巻き返し、後半は歯を食いしばりながらも2着を死守してフィニッシュ。2着から7着までが0.1秒以内という大激戦であったが、京大に貴重な大量得点をもたらした。(近藤勇)

### 女子 4×400mR 予選 (2組 3着+2)

増本梨奈 - 釜谷美翔子 - 加奈山憲代 - 岩橋優

1組 7着 4.06.09 **蒼穹新**

トラックの部2日目の最後を締めくくるマイル予選は女子から行われた。1走増本は昨年よりも確実に走力が上がっているものの、多種目出場の疲労もあり他の強豪校とは差を開けられてしまった。400mで大学ベストを出した2走釜谷は勢いそのままなんとか食らいつく。3走加奈山の安定した走りは流石、一気に差を詰め前の大阪大を抜き4走岩橋へ。岩橋も不調ながらも追いすがる宿敵大阪大を突き放し、蒼穹新の記録でフィニッシュした。(水谷)

### 4×400mR 予選 (3組 2着+2)

花岡洋祐 - 谷口裕幸 - 長谷川聡 - 森裕貴

3組 1着通過 3.18.82

太陽が傾き始め、少し肌寒くなった頃行われたマイル予選。一走は花岡。合図と同時に素晴らしいスタートを切り、粘り強い走りで二走の谷口へ。京大では初となる対校戦も安定感のある走りで先頭争いに絡む。三走は最近絶好調の長谷川。ラスト100mでスパートをかけ一気に先頭に立ちアンカー森へ。冷静な走りで後続と更に差をつけてフィニッシュ。最終日に期待をもたせる素晴らしい予選となった。(白石)

### 三段跳決勝

|     |       |            |             |
|-----|-------|------------|-------------|
| 1位  | 今井 俊彰 | (大阪市立大 M2) | 15.34(+1.5) |
| 2位  | 勢力 薫  | (大阪大 5)    | 15.15(+0.9) |
| 3位  | 村井 伸行 | (大阪大 3)    | 14.69(+1.4) |
| 14位 | 飯村 大智 | (京都大 3)    | 13.13(+2.2) |

飯村 [×-13.13-12.67]

男子三段跳に出場したのは昨年自己ベストを更新した飯村。1本目はホップ、ステップ、ジャンプのバランスのいい跳躍を見せるも足がわずかにでてしまいファールとなってしまう。2本目、ジャンプが少しつぶれてしまったが足もきちんと合って13m13の記録を残す。13m後半のベスト8ラインを狙い3本目の跳躍に臨むも今度はステップでつぶれてしまい12m67となり予選落ちとなってしまった。(西村)

### 砲丸投決勝

|     |       |           |       |
|-----|-------|-----------|-------|
| 1位  | 西野 駿作 | (大阪府立大 3) | 13.82 |
| 2位  | 福井 康大 | (大阪大 3)   | 12.30 |
| 3位  | 安田 直矢 | (神戸大 2)   | 11.85 |
| 11位 | 神野 洋介 | (京都大 2)   | 9.01  |

神野 [8.31-8.98-9.01]

予定より少し早く競技が開始された男子砲丸投げ。先日の奈良県選手権で大幅にベストを更新し、勢いに乗る神野が出場した。1投目は低い投擲となり、8m31と振るわず。徐々に投擲を修正して2投目、3投目と記録を伸ばした。3投目には9m01を記録したが、自己記録更新はならなかった。4投目に進むには11m以上が必要で、かなり厳しい試合になってしまったが、神野には関カレ出場を糧にさらなるベスト更新を期待したい。(河本)

### 女子砲丸投決勝

|     |                 |       |
|-----|-----------------|-------|
| 1位  | 阿原 典子 (大阪体育大2)  | 14.46 |
| 2位  | 原田 千恵子 (園田学女大2) | 14.02 |
| 3位  | 福富 茉莉奈 (園田学女大1) | 13.81 |
| 20位 | 増本 梨奈 (京都大2)    | 7.14  |

増本[7.14-×-×]

この関西インカレは100m、砲丸投、マイルリレーと多種目出場の増本は疲れ気味で少し心配はあったものの、その疲れを感じさせない投擲で見事に目標であった7m超えを1回目で達成してくれた。練習通りリラックスして投げられた、と満足そうだった。今シーズンは積極的に試合で砲丸投に出場し順調に記録を伸ばしている。今後の活躍も期待したい。(田中友)

### 十種競技(後半)

森 洋貴(M1) 1757点  
 [110mH 21.48(-3.4) (242)-DT21.06 (292)-PV2.60 (264)-JT35.11 (372)-1500m 4.55.28 PB(587)]

10種競技も2日目に突入。まずは、110m H。森はトップから離されるも、競り合った相手に勝った。円盤投は、2投目がファールになるなど本人的に納得がいかなかったようだ。棒高跳は器具のアクシデントで開始が大幅に遅れるも、集中力を切らさず成功していく。しかし、疲れが見えてきたのか、2メートル80を3回続けて失敗した。やり投は、棒高跳びのトラブルもあり、休む間もなく始まったが、シーズンベストを残した。最後の1500メートルは最後の力を振り絞り、何とベストを更新。チームを大きく盛り上げた。(林真)

### 十種競技(総合)

|     |                |       |
|-----|----------------|-------|
| 1位  | 濱田 祐輔 (大阪産業大4) | 6784点 |
| 2位  | 福永 瑞貴 (大阪教育大3) | 6390点 |
| 3位  | 関原 孝之 (大阪大6)   | 6268点 |
| 11位 | 森 洋貴 (京都大M1)   | 3668点 |

### 対校得点(3日目終了時点)

|    |       |     |
|----|-------|-----|
| 1位 | 大阪大   | 59点 |
| 2位 | 大阪教育大 | 49点 |
| 3位 | 神戸大   | 43点 |
| 4位 | 京都大   | 32点 |

第4日目 5月14日(土)

長居第2陸上競技場

### 女子200m予選(7組2着+2)

加奈山憲代(3) 7組7着 27.88 (+0.3)

後半戦最初のトラック種目、女子200mには3回生、昨日のマイルメンバー3走の加奈山が出場。インレーンに序盤から追い抜かれる苦しいレースとなった。コーナーの出口には最下位になってしまう。前の選手を粘り強く懸命に追いかけるが、そのままの差でゴール。格上のそろり厳しい展開の中で、目立ったミスもなく、ぶれずに自分の走りをしていった。実力の差を痛感させられたレースではあったが、今後の、七大戦での奮起を期待したい。(長谷川)

### 200m予選(6組2着+4)

牧川 真央(2) 1組2着通過 23.61(-2.4)  
 谷口 裕幸(M1) 6組4着 23.13(-0.9)

コーナーを出るあたりからの猛烈な向かい風が吹く中行われた200m予選。牧川と谷口が出場した。昨日からの連戦で疲労が溜まっているという牧川であるが、最後は流して組2着で余裕で切り抜けた。院生の力を見せたいと意気込んだ谷口は、組4着・記録で5番目とあとひとつのところで惜しくも拾われなかったが、言葉通り力強い走りを見せる。準決勝にこそ行けなかったものの、明日のマイル決勝につながるよい走りであった。(堀江)

### 女子800m予選(6組3着+6)

岩橋 優(3) 3組5着 2.25.05

女子800mには岩橋が出場した。スタート後200mをほぼいつも通りのタイムで通過するも、普段のような力強さとスピード感がない。流れに乗れないまま先頭集団よりもやや後方でレースを進める。しかし、やはりラストは持ち前の粘り強さが発揮された。600m付近からスパートをかけるとじ



わじわと前の選手をとらえ、順位を1つあげて5着でフィニッシュ。タイムではあと一人のところで拾われず準決勝進出はならなかったが、今回のレースは一つの過程として更なる飛躍につなげて行って欲しい。(三村)

### 800m 予選 (5組 2着+6)

|            |         |         |
|------------|---------|---------|
| 小山 俊之 (M1) | 5組 1着通過 | 1.59.64 |
| 水元 惟暁 (3)  | 2組 2着通過 | 2.00.12 |
| 大川 亮 (4)   | 4組 1着通過 | 2.00.75 |

800m 予選も天候に恵まれ好条件下で行われた。水元はスタートと同時に2番手の位置につけそのままレースを展開しそのまま危なげなくゴール。大川はラスト300で先頭に立ち1着。小山は終始先頭で1着。京大の強さを見せつける形となった。(横山高)

### 女子 400mH 予選 (5組 1着+3)

|           |       |          |            |
|-----------|-------|----------|------------|
| 釜谷美翔子 (2) | 5組 5着 | 65.44 CB | <b>蒼穹新</b> |
|-----------|-------|----------|------------|

釜谷は、連日の出場で3本目の400mであり、疲労も溜まっている中、大学ベストを更新する快走を見せた。ハードリングにはミスがなく、最後まで大きく崩れることのない、ほぼイーブンペースで安定した走りをしてくれた。実力以上の相手がひしめくレースに果敢な挑戦であった。走る中で他の強豪選手達から学ぶところも大きかったはずである。今後の釜谷のレースに期待したい。(増本)



蒼穹新の記録を出し、チームを活気づけた釜谷

### 400mH 予選 (3組 2着+2)

|           |       |          |
|-----------|-------|----------|
| 近藤 勇太 (2) | 2組 4着 | 56.96 PB |
|-----------|-------|----------|

男子400mHには2回生の近藤勇太が出場。最近走りの調子はいいとのこと。その調子の良さを活かし、前半から果敢に攻め込んだ。入りの200mまでは先頭に立つ強気の走りを見せ、場をわか

てくれた。後半では地力の差がでてきたのか、まわりに抜かれはじめたものの、いつもより粘りを見せ、最後まで力強く走り抜いた。この力走で近藤勇太は大幅なベスト更新。組で4位で決勝には残れなかったものの、ベストを更新したことにより京大に勢いをつけてくれた。(堀田)

### 200m 準決勝 (2組 3着+2)

|           |         |              |
|-----------|---------|--------------|
| 牧川 真央 (2) | 2組 2着通過 | 22.33 (-2.6) |
|-----------|---------|--------------|

牧川は持ち味のスムーズな加速をこのレースでも遺憾無く発揮し、50mあたりで外側の9レーンの選手を抜く。先頭に立ちそのまま逃げ切るかと思われたが内側7レーンの神大の選手に140m付近で逆転されてしまう。そこから動きが固くなり失速、後ろから激しい追い上げをくらうがなんとか2着は死守し決勝へ駒を進めた。(藤澤)

### 800m 準決勝 (2組 3着+2)

|            |         |         |
|------------|---------|---------|
| 小山 俊之 (M1) | 2組 1着通過 | 1.56.47 |
| 水元 惟暁 (3)  | 1組 3着通過 | 1.57.35 |
| 大川 亮 (4)   | 2組 5着   | 1.58.25 |

これまでの悪天候を吹き飛ばすかのような快晴であった。1組目は、水元が終始神大の西本の後ろにつき、安定したレース運びを見せる。ラスト100mでわずかに後退してしまったものの、ゴール直前に巻き返して決勝へと駒を進めた。2組目は、小山俊之と大川が出場。小山は連戦の疲労を感じさせない完璧なレース運びを見せて、悠々と決勝進出。大川は、一旦はいい位置まで上がったものの、ラストの切り替えがうまくきかずにまさかの準決勝敗退となった。大川の準決勝敗退が大きな痛手となったのは確かだが、それ以上に水元・小山両名の健闘のおかげで皆を大いに勇気づけた試合であった。(神埜)

### 3000mSC 決勝

|     |                |          |
|-----|----------------|----------|
| 1位  | 天野 正治 (奈良産業大4) | 9.06.51  |
| 2位  | 山田 唯 (京都大M1)   | 9.20.43  |
| 3位  | 佐古 諒介 (佛教大4)   | 9.21.29  |
| 12位 | 不破 佑太 (京都大3)   | 9.48.47  |
| 6位  | 荒木 伸哉 (京都大2)   | 10.25.91 |

午後3時過ぎ、強い日射しの中男子3000mSCがスタートした。レースは奈良産大の天野が速いペースで引っ張り早くも独走体制を築く。山田は序盤は一人で4位を走るが徐々に前との差を詰め滋賀大小西、仏大佐古をかわし2位でゴール。貴重

な7点をもたらす見事な走りであった。不破は得点圏ラインでレースを進め積極的な走りを見せるが2000m過ぎに苦しくなり12位でゴール。得点には及ばなかったが七大が楽しみな気迫を見せてくれた。調子が上がらない今の関カレとなった荒木は後半苦しい走りとなった。しかし大舞台を経験したことを糧として次に繋げて欲しい。  
(久好)

### 4×100mR 決勝

|    |                       |       |
|----|-----------------------|-------|
| 優勝 | 京都大                   | 41.22 |
|    | [牧川真央-塚原和明-水上裕介-眞武俊輔] |       |
| 2位 | 神戸大                   | 41.45 |
| 3位 | 大阪産業大                 | 41.70 |

同志社大が京大の応援に加わりレース前から盛り上がる男子4継決勝。1走牧川が連戦の疲れも見せず圧倒的なリードを奪うと、リレーにかかる2走塚原も他の大学に負けない走り。3走水上で神大にわずかに先行されるがバトンパスで京大が再びリードを奪う。4走眞武がそれをしっかり守りきり1着でフィニッシュした。見事連覇を果たし、この日の締めくくりとして最高の結果となった。(巽)



4継は連覇を達成し、1部昇格にむけて良い流れを作る

### 女子走幅跳決勝

|     |                |                           |
|-----|----------------|---------------------------|
| 1位  | 梶木 千妃呂 (立命館大3) | 5.85(+1.7)                |
| 2位  | 板垣 瑛子 (天理大4)   | 5.84(+2.9)                |
| 3位  | 森山美知子 (大阪市立大6) | 5.65(+2.1)                |
| 30位 | 宮崎 伶菜 (京都大1)   | 4.77(+2.8) ♪              |
|     | 宮崎             | [4.77(+2.8)-4.15(-0.9)-×] |

宮崎は試合前には体が戻っていないのでどうなるかわからないと不安を見せていた。しかし本番には挑戦する強い気持ちで臨み、一本目で目標にしていた4m50を大きく上回る4m70の跳躍を見せてくれた。2本目は向かい風にあって失速、3本

目は惜しくも足が会わなかったが好跳躍を見せてくれた。周囲に関西の有力選手がひしめく中で、新入生ながらも京大陸上部として堂々と戦ってくれた。彼女のこれからの跳躍に期待したい。(増本)

### 走幅跳決勝

|    |                |                                                            |
|----|----------------|------------------------------------------------------------|
| 優勝 | 西村 優汰 (京都大2)   | 7.32(+2.4)                                                 |
| 2位 | 山中 敬雄 (大阪府立大3) | 7.18(+2.9)                                                 |
| 3位 | 横洲 正明 (甲南大3)   | 6.93(+2.0)                                                 |
| 5位 | 秋元 一志 (京都大4)   | 6.84(+2.0)                                                 |
|    | 西村             | [7.32(+2.4)-×-×-×-×-×]                                     |
|    | 秋元             | [×-6.84(+2.0)-6.48(+3.4)-6.35(+3.8)-6.16(+0.2)-6.31(+1.1)] |

京大の今期ランク一位が6m37と記録が低迷する男子走幅跳には、秋元と西村が出場した。秋元は一本目はファールしたものの、二本目は自己新に迫る6m84を跳び、西村は一本目に追参ながら7m32を跳び、今までの低迷や不調を払拭する素晴らしい跳躍で大きな12点を取った。(菅原)



見事優勝した西村(左)と  
棒高跳とともに5位入賞を果たした主将の秋元(右)

### 円盤投決勝

|     |               |                               |
|-----|---------------|-------------------------------|
| 1位  | 檀野 俊 (大阪教育大2) | 40.99                         |
| 2位  | 松場 靖生 (和歌山大3) | 40.48                         |
| 2位  | 中山 薫 (近畿医福大2) | 38.15                         |
| 8位  | 矢川 勝太 (京都大4)  | 32.34                         |
| 10位 | 林 翔太 (京都大4)   | 34.87                         |
|     | 矢川            | [34.27-33.16-×-×-34.16-34.76] |
|     | 林             | [×-32.92-30.74]               |

男子円盤投は林(翔)と矢川が出場した。不定期に強風が吹くという悪条件であった。林は1投目がファールになるが、2投目で記録を残す。しかし、就活で満足のいく調整が出来なかったこともあり、記録が伸びず、ベスト8に残ることが出来なかった。矢川は3投目までで7番手につけ、ベ

スト8に残る。しかし、力みが出て記録を思ったようにのぼすことができず、逆転を許し8位に終わった。(林真)

### 対校得点(4日目終了時点)

|    |       |     |
|----|-------|-----|
| 1位 | 大阪教育大 | 69点 |
| 2位 | 大阪大   | 69点 |
| 3位 | 京都大   | 60点 |

第5日目 5月15日(日)

### 長居第2陸上競技場

### 10000mW 決勝

|     |              |          |
|-----|--------------|----------|
| 1位  | 甲斐 奨史 (大阪大4) | 44.53.36 |
| 2位  | 佐伯 佳祐 (大阪大2) | 45.51.85 |
| 3位  | 石飛 雅基 (神戸大4) | 45.55.57 |
| 9位  | 生谷 隆磨 (京都大4) | 52.42.49 |
| 10位 | 西田 昌弘 (京都大2) | 53.39.07 |
|     | 永田 和寛 (京都大3) | DSQ      |

男子10000mWは永田が入賞圏内の中位置、生谷・西田がやや後方の位置取りでスタート。永田は終始快調なペース。生谷は中盤以降ややペースが落ち、西田と競ったがその後西田のペースが落ち、再び西田を突き放す。レースはこの展開のまま進行した。永田は8位でゴールしたが周回が一周足らなかったため審議となったが結果失格。生谷は惜しくも9位。西田は13位でゴールした。生谷はこれが引退レースであっただけに悔やまれる結果となってしまった。(古藪)

### 800m 決勝

|    |               |         |
|----|---------------|---------|
| 1位 | 西本 翼 (神戸大5)   | 1.54.18 |
| 2位 | 小山 俊之 (京都大M1) | 1.54.39 |
| 3位 | 山田 佳祐 (大阪大M1) | 1.55.03 |
| 8位 | 水元 惟暁 (京都大3)  | 1.58.23 |

800m決勝には小山俊と水元が駒を進めた。小山俊は前半は集団の後方で機をうかがいつつ冷静な走りを見せる。バックストレートで鋭い切り替えをみせトップに立つも、ラスト数十メートルでとつもないスパートを見せた神大の選手にかわされてしまい、惜しくも二位でフィニッシュした。水元は積極的な走りで先頭に付こうとするも、二周目でポケットされてしまい周りのペースアップに対応出来なかった。決勝までしっかり走れる力をつけることが今後の課題であろう。(宿利)

### 200m 決勝 (-1.1)

|    |                 |       |
|----|-----------------|-------|
| 1位 | 森本 克貴 (神戸大2)    | 21.84 |
| 2位 | 藤田 拓矢 (大阪教育大2)  | 22.20 |
| 3位 | 寺嶋 高志 (大阪市立大M1) | 22.26 |
|    | 牧川 真央 (京都大2)    | DSQ   |

昼過ぎのホームで少し向かい風が吹く中行われた200m決勝。牧川は今大会8本目と疲労の重なる中、得意のスタートダッシュで果敢に攻めようとする。しかし、支えきれなかったのか、ほんの僅かに早く飛び出してしまい、フライング判定を受け失格となってしまった。非常に悔しい結果となってしまったが彼は4日間よく闘ってくれた。これを原因としてフライングを恐れてしまうことなく、これからもスタート力を生かして積極的に攻め続けて欲しい。(眞武)

### 10000m 決勝

|     |                |          |
|-----|----------------|----------|
| 1位  | T キハラ (奈良産業大2) | 30.29.89 |
| 2位  | 山西 大貴 (神戸大M1)  | 30.55.53 |
| 3位  | 米田 大輝 (大阪経済大2) | 30.59.92 |
| 12位 | 山田 唯 (京都大M1)   | 32.08.68 |
| 22位 | 平井 幹 (京都大2)    | 33.14.17 |
| 27位 | 櫻井 研吾 (京都大M2)  | 33.21.11 |

暑さと強風の中行われた男子10000m。走るのは3000sc準優勝の山田、期待の平井、ベテランの櫻井。出走直後、奈良産のキハラが飛び出すものの、山田は冷静な出だしを見せた。山田は第二集団を引っ張る形となり、平井はその後方で様子を見る。櫻井は調子が万全でなかったこともあり、マイペースに他大の選手を抜かして行くという冷静なレースを展開。レース後半、第二集団がバラけだし山田が少し遅れ始める。平井も苦しい走りとなり、櫻井に追い付かれたもののラスト1000mはしっかり切り替えた走りを見せた。山田、櫻井は苦しいながらも最後まで粘りの走りを見せた。得点はならず、他大学との差も明らかになった10000mだったが粘りの走りはチームに勢いをつけた。(毛芝)

### 4×400mR 決勝

|    |       |         |
|----|-------|---------|
| 1位 | 大阪教育大 | 3.14.49 |
| 2位 | 神戸大   | 3.16.46 |
| 3位 | 大阪市立大 | 3.16.61 |
| 5位 | 京都大   | 3.17.83 |

[花岡洋祐-森裕貴-谷口裕幸-長谷川聡]

決勝のオーダーは、花岡-森-谷口-長谷川。花岡は神大、大教に次ぐ3番手で森にバトンを渡した。森は前半で抑えていたのかスピードにのれなかったのか、または相手が速かったのか2チームほど前に行かせてしまった。しかしラストは必死の粘りで前のチームに食らいつき、谷口にバトンを渡した。谷口は前をいくチームに食らいつき、差を広げられることなく次の長谷川にうまくつないだ。長谷川は前半で前をいくチームにつき、ラスト勝負にでた。しかし相手が速かったため、逆転することは出来なかった。しかしラップを見ると長谷川はさすがの好記録であった。京大の順位は5位であったが3分17秒83と良いタイムであった。(橋本)

### 棒高跳決勝

|     |                |      |
|-----|----------------|------|
| 1位  | 辻 篤志 (関西外語大4)  | 4.80 |
| 2位  | 田中 皓介 (京大4)    | 4.60 |
| 2位  | 宇賀 雄基 (大阪教育大2) | 4.60 |
| 2位  | 高橋 遼 (大阪大3)    | 4.60 |
| 5位  | 秋元 一志 (京大4)    | 4.20 |
| 10位 | 小西 康晴 (京大M1)   | 3.80 |

棒高跳にはいつもの3人が登場。小西は調子が上がっており、いい跳躍で3m80はクリアした。しかし、勝負となる4mは修正しきれず、得点はできなかった。秋元は開始高さ4m20が不安だったが、2本目では合わせてバーを越える。続く4m40を越えられなかったが、5位できっちり仕事をこなした。好調を維持する田中は、4m40、4m60ともに一発で成功。ただ4m80届かず、上位4人でのジャンプオフの末2位タイになる。無難に得点はできたものの3人とも満足いく結果ではないはずなので、これからさらなる活躍を期待したい。(清水)



田中は4m60を難なく飛び、2位タイで表彰台へ

### 走高跳決勝

|     |                |         |
|-----|----------------|---------|
| 1位  | 滝川 憲 (大阪大4)    | 2.05    |
| 2位  | 片平 大地 (大阪府立大2) | 2.00    |
| 3位  | 菅原 知紘 (京大2)    | 1.95 PB |
| 16位 | 松室 堯之 (京大4)    | 1.75    |

走高跳には松室と菅原が出場した。松室は1m70からスタート、70は余裕を持って跳躍し、75も一発でクリアした。しかしこの跳躍で足がつりそうになり、集中力が途切れてしまった。そして臨んだ1m80は思うように身体が動かせず、跳躍失敗となった。また、練習跳躍で1m90をさらりと超えた菅原は開始1m80、85を難なく跳んで、大学ベストタイの1m90も二本目でクリアした。さらには自己ベストとなる1m95も一回目で跳び、大いに盛り上がった。2mの大台に期待が膨らんだが、しかし風の影響もあってか惜しくも跳ぶことはできなかった。2人とも跳躍の動きはよかったので、今後の更なる跳躍に期待したい。(飯村)

### やり投決勝

|                        |                |          |
|------------------------|----------------|----------|
| 1位                     | 田原 紘樹 (大阪教育大4) | 65.19    |
| 2位                     | 中澤 密 (大阪大3)    | 63.49    |
| 3位                     | 藤井 貴広 (神戸大4)   | 58.49    |
| 11位                    | 矢川 勝太 (京大4)    | 50.93 PB |
| 15位                    | 林 翔太 (京大4)     | 46.67    |
| 矢川 [45.79-50.93-49.93] |                |          |
| 林 [×-×-46.67]          |                |          |

最終日に行われた男子2部やり投げには林(翔)と矢川が出場した。両者とも前日の円盤投につづく連戦である。林は、就職活動や肘のケガの影響のために冬に練習を満足にできず、そのためか納得のいく記録を残せず、決勝進出とはならなかった。好調の矢川はベストを上回る投擲をしたものの、あと一步のところまで決勝進出を逃した。(神野)

平成23年度新入生名簿（5月22日現在）

| 名前        | 学部         | 出身高校（都道府県） | パート | 種目・高校ベスト                                  |
|-----------|------------|------------|-----|-------------------------------------------|
| <b>男子</b> |            |            |     |                                           |
| 天野 創介     | 教育         | 日高（和歌山）    | 長   | 5000m 16' 00                              |
| 伊藤 誠人     | 理          | 大垣北（岐阜）    | 短   | 100m 11" 45    200m 23" 40<br>400m 52" 24 |
| 蔭山 凌      | 工          | 天王寺（大阪）    | 短   | 400m 51" 65    400mH 55" 37               |
| 川本 雅人     | 理          | 大阪星光（大阪）   | 短   | 400mH 58" 84                              |
| 畔柳 泰成     | 法          | 岡崎（愛知）     | 短   | 100m 11" 62    200m 23" 7                 |
| 小御門 道     | 工          | 東築（福岡）     | 長   | 800m 2' 00    1500m 4' 15<br>5000m 16' 30 |
| 庄司 真      | 医          | 四条畷（大阪）    | 短   | 400m 49" 89    200m 22" 42                |
| 永野 広大     | 工          | 四日市（三重）    | 短   | 110mH 15" 57                              |
| 西田 光治     | 総人         | 八王子東（東京）   | 短   | 110mH 16" 50                              |
| 西田 俊      | 工          | 六甲（兵庫）     | 長   | 5000m 16' 56                              |
| 橋本 宏平     | 農          | 岡山朝日（岡山）   | 中   | 800m 2' 08                                |
| 日浦 幹      | 農          | 修道（広島）     | 跳   | 走幅跳    三段跳                                |
| 藤井 知暁     | 理          | 広島大付属（広島）  | 長   | 5000m 15' 50                              |
| 松田 優拓     | 総人         | 藤島（福井）     | 中   | 800m 2' 03    1500m 4' 20                 |
| 森田 悠也     | 工          | 高津（大阪）     | 短   | 100m 11" 92    走高跳 1m60                   |
| 吉川 慶      | 理          | 膳所（滋賀）     | 短   | 400m 52" 54                               |
| <b>女子</b> |            |            |     |                                           |
| 片岡友里絵     | 京女         | 土佐女子（高知）   | マネ  |                                           |
| 高橋 真希     | 法          | 北野（大阪）     | 長   | 1500m 5' 12" 99                           |
| 中尾 優里     | 医          | 大垣北（岐阜）    | 跳   |                                           |
| 成田奈保美     | 京女         | 守山（滋賀）     | マネ  |                                           |
| 松澤 美樹     | 医          | 金沢泉丘（石川）   | マネ  |                                           |
| 宮崎 伶菜     | 医          | 四日市（三重）    | 跳   | 走幅跳 5m15    棒高跳 2m80                      |
| <b>院生</b> |            |            |     |                                           |
| 谷口 裕幸     | エネルギー科学研究科 | 龍野（兵庫）     | 短   |                                           |



---

蒼穹ニュース 平成23年度 第2号

平成23年5月22日 発行

---

発行所：京都大学体育会陸上競技部

編集者：近藤勇太・水谷浩人・渡邊健紀（副務）

特別協力：山口昌太・樋口祐磨（学連員）

加奈山憲代（記録係）・秋元一志（HP係）

写真担当：神野洋介・西田昌弘・水上裕介

---

陸上競技部 HP <http://www.kusu.kyoto-u.ac.jp/~athletic/index.html>

ミラーサイト <http://www.geocities.co.jp/Athlete-Samos/2360/>

陸上競技部記録 HP <http://www.kusu.kyoto-u.ac.jp/~athletic/kiroku/index.html>

関西学連 HP <http://gold.jaic.org/jaic/icaak/index.htm>

メールアドレス [kerorinpic@e-broad.ne.jp](mailto:kerorinpic@e-broad.ne.jp)（近藤）